



Title	Herbrand ノ Lemma ニ就テ
Author(s)	稲葉, 榮次
Citation	全国紙上数学談話会. 1941, 223, p. 446-453
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74895
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

965. Herbrand 1 Lemma = 就テ

稻葉 榮次 (海兵)

Herbrand 1 Lemma = 関シテ 守屋氏ノ 指摘サ
 レタ 事 = 就テ 一 寸 述 ム タイ ト 思 フ。 K_1 及 ビ K_2 カ 是 ノ 有
 限 次 代 数 的 拡 大 体 デ ア ル ト シ、 $K = K_1 K_2$ ハ ソ ノ Kom-
 positum ト スル。 K ノ 任 意 ノ Primideal \mathfrak{p} フ ト
 ヲ、 \mathfrak{p} デ 割 レル K_1, K_2 = 於 ケル Primideal フ ヲ
 ヲ $\mathfrak{p}_1, \mathfrak{p}_2$ ト スル。

亦、 \mathfrak{p}_2 ノ 是 = 關 スル Relativgrad フ $f_1, f_2,$

Exponent $\gamma e_1, e_2$, rednzierte Exponent
 $\gamma e_1^{(0)}, e_2^{(0)}$ トシ, $\gamma \in K_2 = \text{關スル Relativgrad}$
 γf , rednzierte Exponent $\gamma e^{(0)}$ トスレバ

$$f = \frac{f_1}{(f_1, f_2)}, \quad e^{(0)} = \frac{e_1^{(0)}}{(e_1^{(0)}, e_2^{(0)})}$$

が成立ツトイフコト, コレが Herbrand, 1 式デアルが,
 守屋氏ノ指摘サレタ通り必ずしも成立セヌ。特ニ K_1 「ガ
 ロア」体ト制限シテモ成立タヌコトヲ本誌第 22 / 号デ同
 氏が例ヲアケラレタ。

併シ如何ナル場合ニ成立シ, 如何ナル場合ニ成立セヌ
 カジ、亦知具体的ニ明確デナイ様デアル。守屋氏ノ論文
Über einen Satz von Herbrand (北大紀要 4 卷
 4 号)ニ於テ上式ノ成立スル種ノ場合ガ挙ゲラレテオル
 が, コレヲテ統一スル立場ガ望マシイ。一般ノ場合ニハ少
 シ複雑ニナルノデ, 特別ノ場合トシテ K_1 及ビ K_2 ガ共ニ
 K 上デ galoissch デアル場合ニツイテ謂ベタ所ガ
 次ノ結果ガ得ラレタ。

(A) K_1 及ビ K_2 / $[K_1, K_2]$ / 上ノ Trägheits-
 körper $\gamma \vee \gamma \vee T_1, T_2$ トシ, K / $[K_1, K_2]$ / 上
 ノ Trägheitskörper γT トスル。(T ハ勿論合成体
 T_1, T_2 ヲ含ム)

T ガ T_1, T_2 ト異リ且ツ $\gamma \vee$ デ割レル T_1, T_2 = 於ケル
 Primideal ガ T = 於テ voll zerfallen セヌトキ
 ハ Herbrand, 1 第一式ハ成立セヌ。コノトキ f ハ

$\frac{f_1}{(f_1, f_2)}$ の倍数で $f = c \frac{f_1}{(f_1, f_2)}$ とスルとき $c \in (e_1, e_2)$ の約数となる。

$T = T_1, T_2$ とスルか或は \mathcal{K} で割れる $T_1, T_2 =$ 於ける Primideal が T が voll zerfallen スル場合は (A) 第一式が成立スル。

(B) Herbrand の第一式が成立スル。

(A) の証明。 $[K_1, K_2] = \mathcal{K}$ とスル場合は証明スル必要無し。先づ T_1 及び $T_2 =$ 關して Herbrand の第一式が成立スルことを証スル。

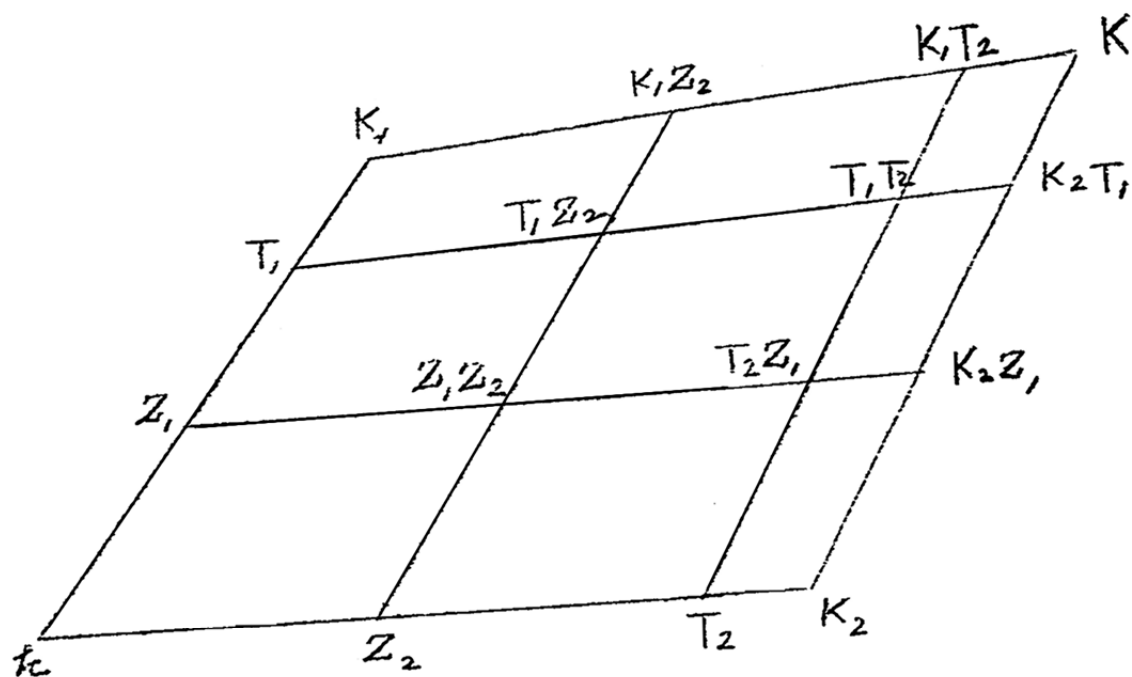
即ち \mathcal{K} で割れる $T_1, T_2 =$ 於ける Primideal を $\mathcal{P}'_1, \mathcal{P}'_2$, $T_1, T_2 =$ 於ける \mathcal{K} で割れる Primideal を \mathcal{P}' とスルト, $\mathcal{P}'_1, \mathcal{P}'_2$ の \mathcal{K} 關する Relativgrad は f_1, f_2 とスル, \mathcal{P}' の $T_2 =$ 關する Relativgrad は

$$f' = \frac{f_1}{(f_1, f_2)}$$

とスルことを言ハウ。

K_1, K_2 の $\mathcal{P}_1, \mathcal{P}_2 =$ 關する分解体をソレゾレ Z_1, Z_2 とスルトキ, Z_1, Z_2 を Grundkörper とシテ考ヘレバ $K_1 Z_2, K_2 Z_1, T_1 Z_2, T_2 Z_1$ は Z_1, Z_2 上の「ガロア」体である。

$T_1 Z_2$ 及び $T_2 Z_1 =$ 於ける \mathcal{K} で割れる Primideal の $Z_1, Z_2 =$ 關する Relativgrad は f_1, f_2 とスル。何とスレバ,



t_2 により $Z_2 = \text{至ル間}$ で *voll zerfallen* スルカラ、 Z_1 により $Z_1, Z_2 = \text{至ル間}$ 及び T_1 により $T_1, Z_2 = \text{至ル間}$ での *voll zerfallen* スル。従って Z_1, Z_2 により $T_1, Z_2 = \text{至ル間}$ での *unzerlegt* デアル。同様 = Z_1, Z_2 により $T_2, Z_1 = \text{至ル間}$ での *unzerlegt* デアル。

$\nu = \nu_{K_1}$, $T_2, Z_1 = \text{閉スル Relativgrad}$ ハ ν ハ f' デアル。何トトレバ T_2 により $T_2, Z_1 = \text{至ル間}$ ハ *voll zerfallen* スルカラ、今任意ノ素数 l デトテ、 f_1 ハ丁度 l^{t_1} デ f_2 ハ丁度 l^{t_2} デ割レルトスル。

$T_1, T_2 / Z_1, Z_2$ / Galois group G ハ $T_1, Z_2 / Z_1, Z_2$ / Galois group G_1 ト $T_2, Z_1 / Z_1, Z_2$ / Galois group G_2 ト / 直積ト同型デアルカラ、位数 l / 幕トスル G / 元 / 位数ハ $l^{\max(t_1, t_2)}$ ヨリ大デトイ。

サテ f' が丁度 l^s デ割レルトスレバ、 ν_{K_1} / $Z_1, Z_2 = \text{閉スル Relativgrad}$ $f' f_2$ ハ丁度 l^{s+t_2} デ割

レロ。サテ \mathcal{K}' の分解群の cyclic だから $G = \pi$
 ℓ^{s+t_2} 十位敷ヲ有スル元ガアル。故ニ

$$\ell^{s+t_2} \leq \ell^{\text{Max}(t_1, t_2)}$$

$$s+t_2 \leq \text{Max}(t_1, t_2)$$

シカルニ

$$\text{Max}(t_1, t_2) + \text{Min}(t_1, t_2) = t_1 + t_2$$

$$\therefore s \leq t_1 - \text{Min}(t_1, t_2)$$

$$\therefore f' \leq \frac{f_1}{(f_1, f_2)}$$

シカルニ \mathcal{K}' の Z_1, Z_2 に関する Relativgrad $f' f_2$
 ハ T, Z_2 に関する \mathcal{K}' 可割レル Primideal Z_1, Z_2
 に関する Relativgrad f_1 可割レルカラ f' ハ
 $\frac{f_1}{(f_1, f_2)}$ 可割レル。

$$\therefore f' = \frac{f_1}{(f_1, f_2)}$$

ソコヲ結局問題ハ $f' = f$ ナルカ否カヲアル。

サテ $K_2 T_1$ に関する \mathcal{K} 可割レル Primideal K_2
 に関する Relativgrad ハマハリ f' ナル。

何トナレバ $T_2 Z_1$ ヨリ $K_2 Z_1$ 至ル間デハ Prim-
 ideal Grad ハ大トナラヌカラ。ソコヲ \mathcal{K} $K_2 T_1$
 に関する Relativgrad が \perp ナレバ $f' = f$ トナルノ
 デアル。トコロガ K $\text{Trägheitskörper } T$ ガ T_1, T_2
 ト一致セズ。 \mathcal{K}' ガ T に関する voll zerfallen セヌト

スレバ, T, T_2 ヨリ $K = \text{至ル間}$ デ *Primideal*, *grad* が高クナル

シカル $= K_2 T_1 / T, T_2 = \text{於テ}$ \wedge *verzweigen* スル
 知ケテアルカテ, $K / K_2 T_1 = \text{於テ}$ *Relativgrad* が高クナルコトニナル。従ツテ $f > f'$ トナル。シカモユノ
 場合 $f = cf' \Rightarrow c \wedge [K : K_2 T_1] = [K_1 : T_1]$ ノ約数
 又 $c \wedge [K : K_1 T_2] = [K_2 : T_2]$ ノ約数デアル。故ニ (e_1, e_2) ノ約数デアル。

モシモ $T = T_1 T_2$ ナルカ或ハ $T / T_1 T_2 = \text{於テ}$ ψ' が *voll zerfallen* スルトキハ, T, T_2 ヨリ $K = \text{至ル間}$ デ *grad* ハ大トナラヌ。

$$\therefore f = f'$$

(証終)

守屋氏ノ考ケラレタ例ニ於テハ $T_1 = R, T_2 = R,$
 $T = R(\sqrt{p})$ デアル。

ソコニ $T \neq T_1 T_2$ デ $\mathfrak{p} \wedge R(\sqrt{p})$ デ *voll zerfallen* セヌ。 $\left(\frac{p}{\mathfrak{p}}\right) = -1$ ナカラ。

(B) ノ証明

K_1, K_2 ノ $\mathfrak{f}_1, \mathfrak{f}_2 = \text{関スル}$ 分岐体ヲ V_1, V_2 トスル。
 $T_2 V_1 / T_1 T_2 = \text{於テ}$ ψ' ノ分岐ニテ分岐指数ハ $e_1^{(0)}$ デアル。

亦 $T_1 V_2 / T_1 T_2 = \text{於テ}$ ψ' ノ分岐指数 $e_2^{(0)}$ デアル。
 $T_2 V_1$ 及ビ $T_1 V_2$ ノ共ニ $T_1 T_2$ ノ上ノ「ガロア」体デ *Galois* 群ヲ $\overline{G}_1, \overline{G}_2$ トスレバ, V_1, V_2 ノ $T_1 T_2 = \text{関スル}$ *Galois*

群ハソノ直積トナレ。 ψ / $K_2 =$ 對スル *reduzierte Exponent* $e^{(0)}$ ハ $K_2 V_1 =$ 於ケル *Primideal* ノ $K_2 T_1 =$ 對スル *reduzierte Exponent* = 等シク 従ッテ $V_1, V_2 =$ 於テ ψ テ割レル *Primideal* \bar{f} / $T_1, V_2 =$ 對スルソレ = 等シク。

$e_1^{(0)}, e_2^{(0)}, e^{(0)}$ カ丁度 $e^{v_1}, e^{v_2}, e^\lambda$ テ割レルトスレバ, \bar{f} / $T_1, T_2 =$ 關スル *reduzierte Exponent* ハ丁度 $e^{\lambda+v_2}$ テ割レル。シカレ = 特性群ノ分枝群 = 關スル *Faktorgruppe* ハ *cyclic* ナカラ (A) / 証明ノ場合ト同シク

$$e^{\lambda+v_2} \leq e^{\text{Max}(v_1, v_2)}$$

$$e^\lambda \leq e^{v_1 - \text{Min}(v_1, v_2)}$$

$$\therefore e^{(0)} \leq \frac{e_1^{(0)}}{(e_1^{(0)}, e_2^{(0)})}$$

シカレ = $e^{(0)} e_2^{(0)}$ ハ $e_1^{(0)}$ テ割レルカラ

$$e^{(0)} = \frac{e_1^{(0)}}{(e_1^{(0)}, e_2^{(0)})} \quad (\text{証終})$$

附記. f ル Grundkörper \mathcal{S} / $K = \mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2$ ナアルトキ, $\mathcal{S} \ni \mathcal{S}_1 =$ 至ル間テ *verzweigen* ナラバ $\mathcal{S}_2 \ni \mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2 =$ 至ル間テ *verzweigen* ナス。亦 $\mathcal{S} \ni \mathcal{S}_1 =$ 至ル間テ *voll zerfallen* ナラバ $\mathcal{S}_2 \ni \mathcal{S}_1, \mathcal{S}_2 =$ 至ル間テ *voll zerfallen* スレ。コノ事柄ヲ上記ノ証明テ度々使用シタガ、コノ事柄

ハ周知ノコトヲ思フ。亦上記(A), (B)ノ証明ヲHerbrand
ノ如ク群論的ニマツテモイムガ, (守屋氏ノ論文(前掲186
頁)参照)上ノ如ク中間ニ体ヲ考ヘテマツル方が様子がハ
ツキリストト思フ。

——昭和十六年八月二十六日——